

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《理工農系》

●東京工業大学情報理工学研究科情報環境学専攻

「PBLと論文研究を協調させた教育の実践」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

博士課程においてはインターンシップを必修化しようとしているが、受け入れ企業の発掘、特に海外の企業の発掘には困難が伴う。

一方、一旦実績が構築されると、その継続は比較的容易であるが、学生が常にその企業でのインターンシップを希望するとは限らないなど、マッチングにはある程度のボリュームの中での調整が望まれる。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

実績作りの困難さということであり、広い産業分野へのインターンシップのメニューが提供できなかったことである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

回避する策として、海外の大学と学生の交換留学によるインターンシップを計測し、相手先大学におけるプロジェクトに参画させる対応を採用した。